

平成 29 年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会
特定中山間保全整備事業「阿蘇小国郷区域」 議事概要

1. 実施日 平成 29 年 7 月 4 日(火) 15:15~17:00

2. 場所 農林水産省 本館地下 1 階 会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院 教授
穴見 まち子 小国町議会議員
飯田 俊彰 東京大学大学院 准教授
橋本 禅 東京大学大学院 准教授
(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長の選出

浅野委員を選出した。

(2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について

事務局より説明を受け、質疑を行った。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業により整備された農用地は、水稻及び野菜生産の効率化の実現に寄与し、農林業用道路は、地域ブランドである阿蘇あか牛やジャージー牛の採草放牧地への移動や草地の維持・管理のための利用に加え、日常の生活道として活用されており、地域活性化に貢献しているものと評価できる。

(農用地整備)

区画整理により区画整形・拡大・勾配修正がなされ、暗渠排水により排水不良が改善されたことで、機械作業が容易となり農作業が効率化し、営農経費の節減に貢献している。

南小国町の区画整理団地では、本事業を契機に集落営農の取組、認定農業者による農作業受託が実施されている。

また、事業参加者が地域農産物のPRイベント開催、農家民泊・グリーンツーリズムの取組を拡大するなど、都市農村交流も盛んとなっている。

(農林業用道路)

整備された農林業用道路は、接続する県道・町道とともに、熊本中心部や福岡方面への農林産物流通路となっており、地域住民の買い物や通勤、通学など日常生活の利便性の向上に貢献している。

小国町では、間伐材や林地残材を熱エネルギーとして活用する「木の駅プロジェクト」が実施されており、散在している森林資源を運搬する経路として農林業用道路が活用され、森づくりと地域活性化が図られている。

さらに、平成28年4月に発生した熊本地震において、福岡方面に通じる国道が法面崩壊により約5ヶ月間通行が出来なくなった際、国道の代替路として活用されると共に、地域住民の生活基盤を支える重要な役割を果たした。

(今後の農業振興や地域振興に向けて)

本地域では、稲作、畑作及び畜産といった多様な農業が展開されており、「だいこん・きゅうり・ほうれんそう」は国から主要産地指定を受けているものの、農家の高齢化や後継者不足から生産量は減少傾向にある。今後は、世界農業遺産や地域ブランドを活かした6次産業化を通じて新規就農者や後継者の育成を図ることが重要である。また、営農意欲維持のため、シカやイノシシの獣害に対する抜本的な対策を地域で検討して実施することが必要と思われる。

さらに、世界農業遺産「阿蘇の草原の維持と持続的農業」の登録や「阿蘇あか牛」、「阿蘇小国ジャージー牛乳」、「小国だいこん」等の地域ブランドを活かした情報発信を行い、「うるるん体験」をはじめとした温泉施設やグリーンツーリズムへの来訪者に地域特産物の消費拡大を図ることが重要と考える。

(費用対効果の算定手法における課題)

本事業で整備された農林業用道路については、熊本地震が発生した際に国道の代替路として有効に機能したことが確認されたことから、地域交通ネットワークの一翼を担っている農業用道路の効果について、費用対効果分析に加えられるよう調査方法や算定手法を検討することが望ましいと考える。

(以上)